

「姫島を愛し・心豊かでたくましく・自ら実践する児童生徒の育成」

姫島で創る「わくわく」の学び

「自己の強みが輝く探究的な学びと
少人数の強みを生かした授業デザイン」

姫島小学校・志摩中学校姫島分校



姫島の現在地：子供たちの主体性を阻む「2つの要因」

環境の制約

島という環境による「刺激の少なさ」と「限定された経験」。発想の広がりが乏しくなりがちな現状。

大人の関わり

大人の関わりが「過剰」になりがち。先回りして教えすぎること、主体的に考える機会を奪うリスク。

生じている課題：
子供の成長に不可欠な
「多様な体験」と「主体性」
を発揮する機会の不足



環境の壁を越えるために、 私たちが育むべき「4つの力」

現状の課題



① 主体性・探究心

自ら問いを持ち、解決に向けて動き出す力。

② 思考の深まり

表面的な理解にとどまらず、多角的に物事を捉え、粘り強く考える力。

③ 言語による表現と対話

自分の考えを言葉にし、他者との深い対話を通じて学びを広げる力。

④ 多様な経験

限られた環境の中でも、疑似的・越境的なつながりを持ち、視野を広げる経験。



内容Ⅰ 自己の強みが輝く「探究的な学び」へのアプローチ

【主体的な探究者へ】

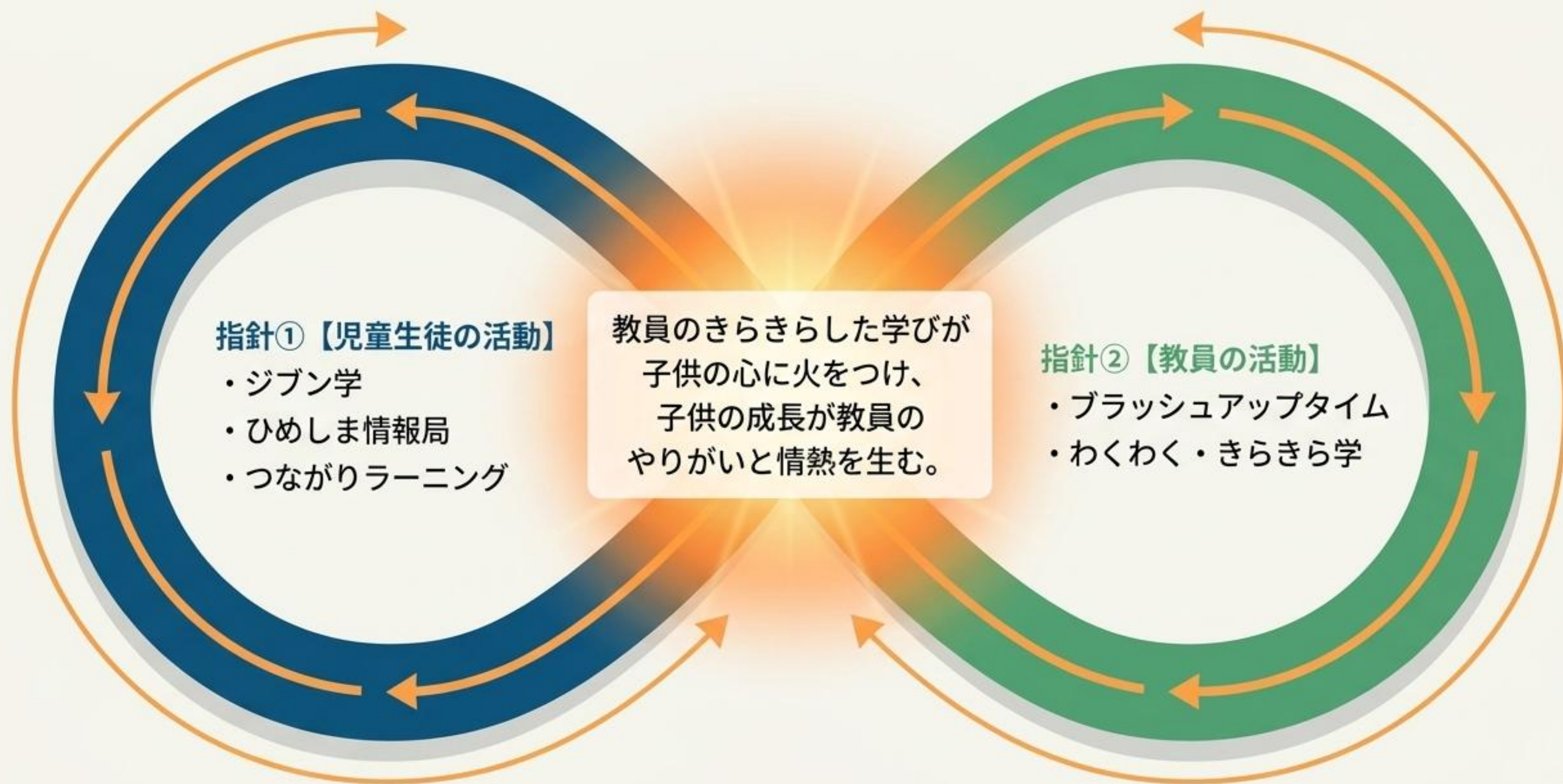
「もっと知りたい」「やってみたい」という内発的動機で学びに向かう。安心して挑戦できる環境で自分を表現し、自己肯定感を高める姿。

【学びの伴走者・創造者へ】

授業づくりや支援の工夫を通し、教育活動そのものに「やりがい」と「楽しさ」を見出す。自らも主体的に学ぶ「成長モデル」としての姿。



共鳴するエネルギー：双方向の「わくわく」を生み出すエコシステム

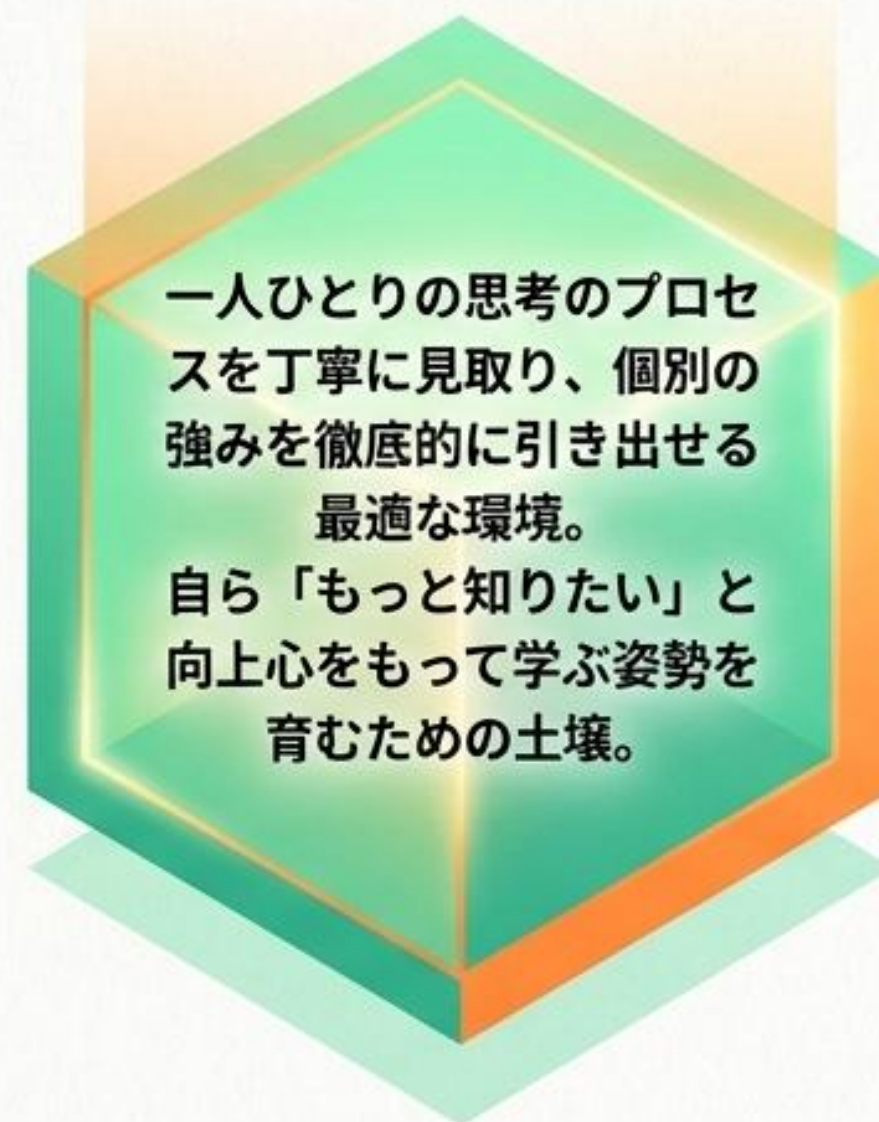


内容Ⅱ 「少人数」を制約ではなく、最大の「強み」へと転換する

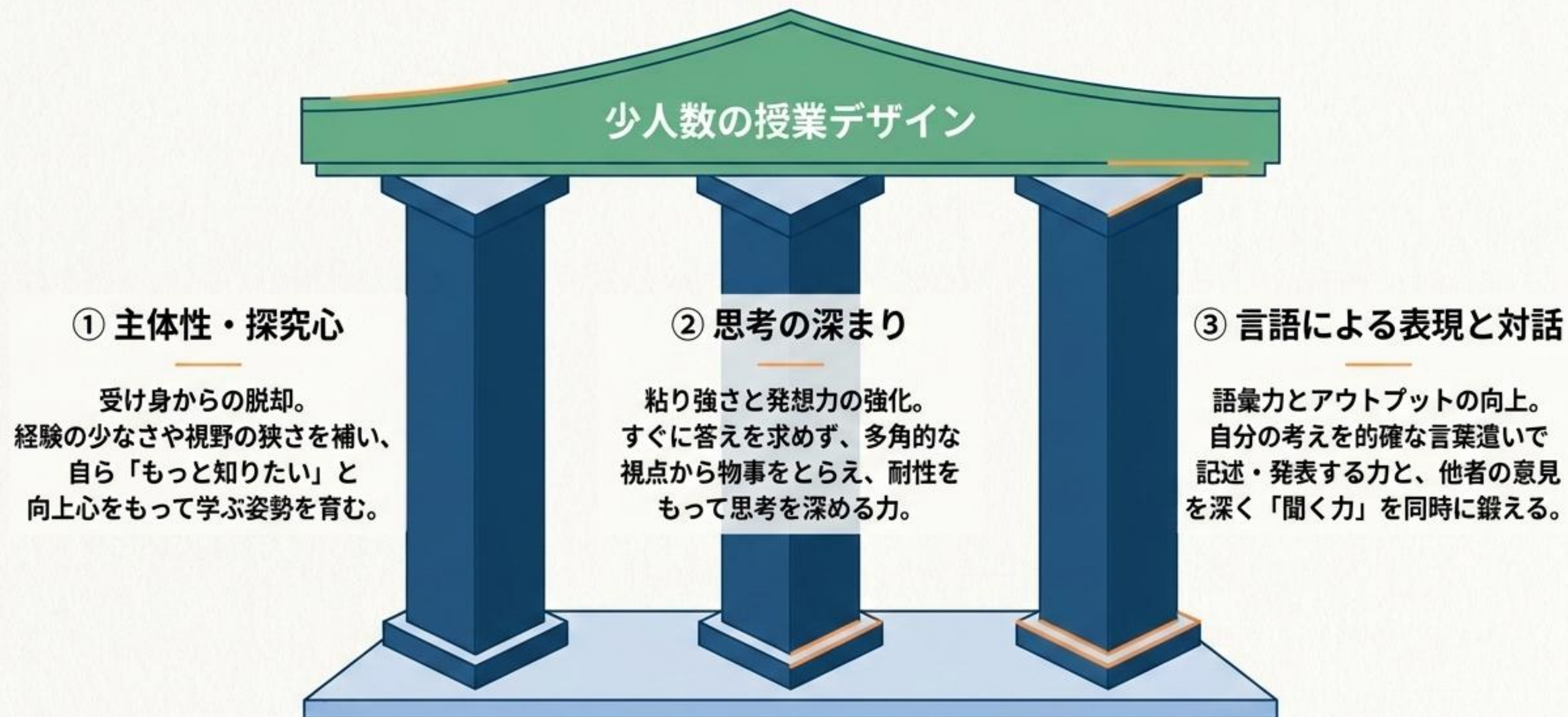
From (これまでの捉え方)



To (これからの活かし方)



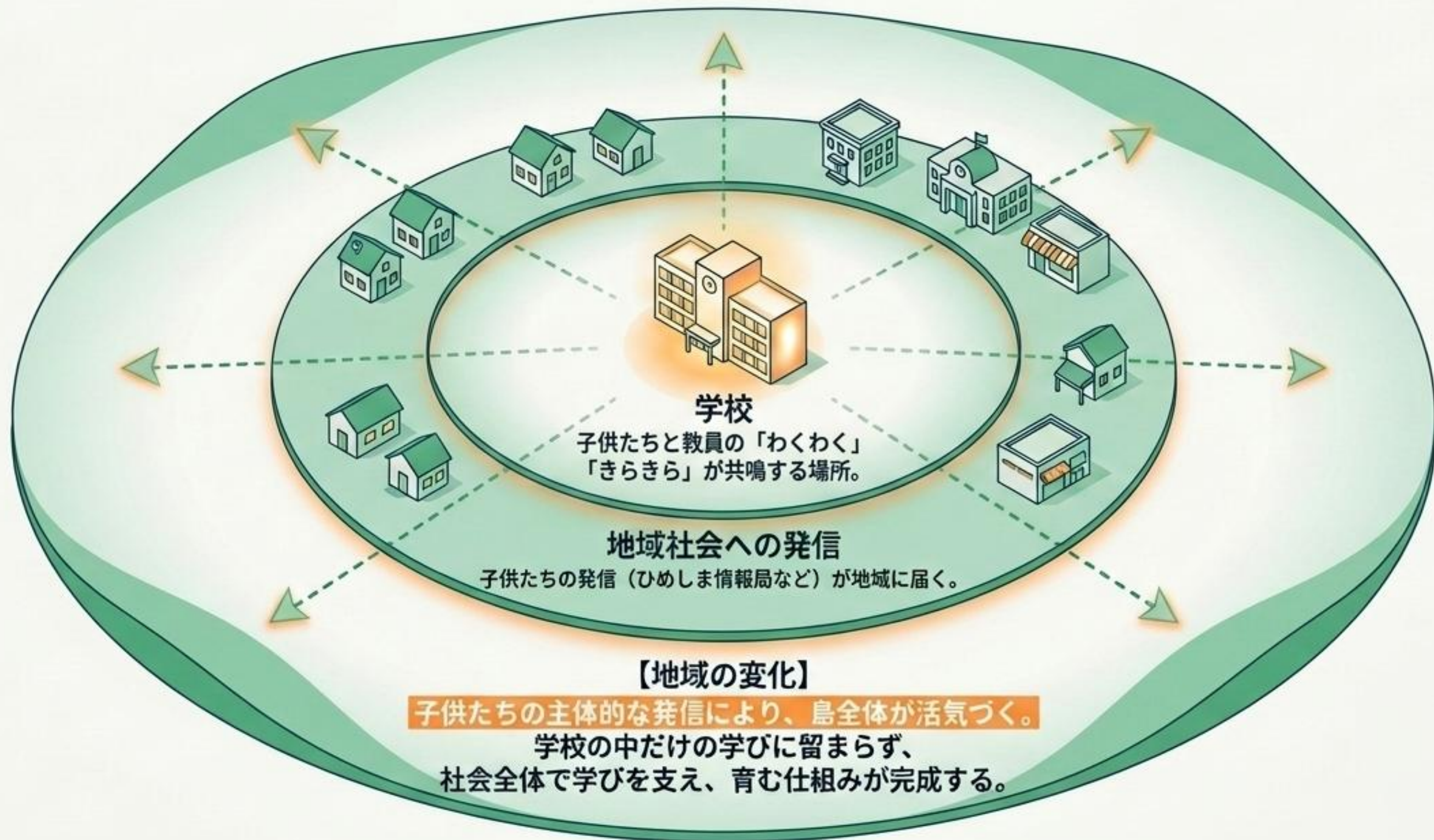
少人数の強みを活かした授業で培う「3つの力」



変革のコアテーマ：双方向の「わくわく」を生み出す学びづくり



波及するエコシステム：学校の変化が「姫島の未来」を活気づける



姫島の未来を創るための「羅針盤」



自己の強みを輝かせる「探究」と、少人数の強みを活かす「授業デザイン」。
教職員と児童生徒の「わくわく」が連鎖するこのエコシステムが、姫島の未来を切り拓く力となる。

『姫島を愛し、心豊かでたくましく、
自ら実践する児童生徒の育成』の実現へ。

「姫島を愛し・心豊かでたくましく・自ら実践する児童生徒の育成」

姫島で創る「わくわく」の学び

「自己の強みが輝く探究的な学びと
少人数の強みを生かした授業デザイン」

姫島小学校・志摩中学校姫島分校



『姫島を愛し、心豊かでたくましく、自ら実践する児童生徒の育成』

児童生徒と教職員のわくわくを生み出す姫島の学びづくり

～自己の強みが輝く探究的な学びと少人数の強みを生かした授業デザイン～

自己の強みが輝く探究的な学び(内容Ⅰ)

双方向のわくわくを生み出すエコシステム



【児童生徒】
ジブン学
ひめしま情報局
つながりラーニング

【教員】
ブラッシュアップタイム
わくわく・きらきら学

共有

創造・想像

未知

少人数の強みを生かした授業デザイン(内容Ⅱ)

少人数の強みを最大化する40・45分授業の創造



主体性・探究心(受け身からの脱却)
思考の深まり(粘り強さと発想力の強化)
言語による表現と対話(語彙力とアウトプットの向上)



児童生徒の実態から出発する
「主体性(わくわく)」の育成

姫島小学校・志摩中学校姫島分校
研究構想図

授業デザイン：明日から実践できる「5つの手立て」とメカニズム

アクション（教員の手立て）	防げる弊害・効果	獲得する力
問いを「選ばせる・つくらせる」	与えられた課題からの脱却	【主体性の発揮】
問い返し（発問）の工夫	すぐに答えを出してしまうことの防止	【思考の深まり】
「待つ」時間の確保	先回りして教えすぎる「オーバーティーチング」の防止	【自立的な思考の保護】
対話を「往復」させる	一方通行のコミュニケーションの打破	【言語化の強化】
役割をもたせる	コミュニケーションパターンや居場所の「固定化」の打破	【全員の参加と責任感】